

〈可能性〉の表現としての「～ることがある」について  
 “～Ru koto ga aru” as an Expression of Possibility

高橋 美奈子, 四天王寺大学  
 Minako Takahashi, Shitennoji University

## 1. はじめに

文法形式には、意味用法や機能において類する点を持つ「文法的類義表現」が存在し、筆者は目下この「文法的類義表現」を追究している。同じ文法カテゴリーに属する複数の形式間の類義関係については既に多くの研究の積み重ねがある一方で、異なる文法カテゴリーに属する形式が使用条件によっては類義となる現象については、それほど研究が進んでいるとは言にくい。

〈可能性〉を表す表現形式としては、次のような諸形式が知られている。

- ・「～かもしれない」…認識のモダリティ
- ・「～(し)うる」、「～(す)ることが(も)ありうる」…ヴォイスの一種とされる「可能」の一種
- ・「～{可能性/おそれ/懸念/危険 等}がある」…複合形式
- ・「～(す)ることがある」<sup>1</sup>

この最後の形式(以下「～ることがある」と表記)は、字義から言えば「～ること」で表される事態が「ある」すなわち存在することを表すが、事態の〈可能性〉を表す場合もある。

- (1) この病気は進行すると視力低下を{招くことがある/招くかもしれない/招きうる/招くことがありうる/招く恐れがある}。

日本語教育文法においては、「～たことがある」は〈経験〉を表す形式として初級で教えられる。また、中級において「～ることがある」が「時々・たまに～が起こる」ということを表す形式として取り上げられることがある(例:『みんなの日本語中級I』等)。しかし、この形式が〈可能性〉を表すことについては、日本語教育文法では特に取り上げられていない。

一方で、日本語学習者の産出として次のような実例がある。

- (2) NS : でも、例えば大変な病気になったりとかした時は、多くのお金がいりますよね

NNS : うーん、そうですねー、その場合にはー、(略)、家を、売ることもあります、でも私は若いですから、その悲しい場合のことを、まだ考えません (I-JAS RRS46-I)

- (3) [少子化の引き起こす問題について] 子どもの数の減少によると子ども同士の交流機会も減少して、社会性が育まれにくくなる。また、青少年期に乳幼児と接触する機会が減少することで、その子どもたちが親になったときに育児不安につながることもある。(JCK 作文コーパス c23-2)

これらは事態の生起の〈可能性〉を表すのに「～ることがある」を使用しているが、自然で適切とは言にくい。これらの文に「かもしれない」や「ことが(も)ありうる」が使用されていれば、問題はない。

- (2) ' その場合には、家を {売るかもしれませんが／売ることもありえます}。  
 (3) ' その子どもたちが親になったときに育児不安に {つながるかもしれない／つながることもありうる}。

日本語学習者にとって、産出には他形式の使用で足りるとしても、理解には「「～ることがある」は〈可能性〉を表す場合がある」との知識も必要となろう。しかし前述のように日本語教育文法でこのことが明示的に取り上げられないのは、この形式が〈可能性〉を表す場合は限定的であるとされ、日本語文法研究において周辺的な扱いを受けてきていることも影響していると考えられる。

本稿では、文法的類義表現の研究の一環として、次の事柄を追究した。

- (4) 「～ることがある」は、どのような場合に〈可能性〉を表すのか。また、それはなぜか。

## 2. 先行研究

前述のようにこれまでの日本語文法研究では、「～ることがある」という形式は〈可能性〉を表すことは知られていても、周辺的な存在と見なされてきた。例えば、可能性を表すいくつかの形式を論じた森山 (2002) には、「「～ことがある」は、(例文略) のように可能性をも表すことがあるが、基本的に事態の存在を経験的に言うところに意味の中心がある。そのため、「かもしれない」に重なるのは、条件構文を内在させるなど特殊な場合に限られ、ここでは簡単に位置づけを与えるにとどめ、考察の対象とはしない。」(pp.18-19) とある。そのような中でこの形式を大きく取り上げた研究として、宮崎 (2004) (2018) がある。その主張の要点は、概略次のようにまとめられる<sup>2</sup>。(本稿が「～ることがある」と表記する形式を、宮崎論文では「スルコトガアル」と表記している)

- (5) 反復性を表すスルコトガアルは、ポテンシャル<sup>3</sup>な可能性を表すこともできる。

例：・飛行機は天候の関係で出発が遅れる {こともありうる／ことがある}。(ポテンシャルな可能性)  
 ・今日の審議は長時間に及ぶ {こともありうる／\*ことがある}。(アクチュアルな可能性)

- (6) 反復性と可能性には連続性がある。スルコトガアルが可能性を表す文へ移行する場合には次のようなものがある。

- ▶ 特性化：過去において実際に何度か観察されたことを、主体の特性として捉えなおすことにより、可能性を述べる文に移行する
  - ・七面鳥という鳥はなかなか気が強い。見慣れぬ人間、子供などを見ると尾羽を立てて襲いかかることがある。
- ▶ 主体の一般化：個別主体であるよりも一般主体の方が、ポテンシャル化(時間的抽象化)が進み、可能性を表す文に移行する
  - ・このボールペンは、急に書けなくなることがある。(個別主体)  
 …特性化しているが、反復性が残存
  - ・安いボールペンは、急に書けなくなることがある。(一般主体)  
 …特性化し、かつ一般主体。可能性を表す文と解釈できる

- ▶ 例外事情：「ある条件下において例外的な事例が発生する可能性があること」を述べるタイプの文では、参加者（主体または客体）が具体的ではなく、抽象化が起こっている場合は、可能性の意味が実現する。
  - ・ 普段お金がない僕も、給料日には、レストランでご馳走を食べることがある。…参加者が具体的。反復性を表すに止まっている
  - ・ 切符をなくされたお客様には、始発駅からの運賃を請求することがあります。…参加者の抽象化が起こっており、可能性の意味が実現している
- ▶ 否定形式：スルコトハナイは、頻度を表す副詞と共起した場合は反復性に止まるが、そうではない場合は一挙に可能性の表現になっていく。
  - ・ 浜までは一本道なので、太郎は途中で行き違いになることはない、と安心していた。（可能性の否定）

事態が主体の特性と捉えられる場合、それも個別主体の場合より一般的な主体の場合の方が、事態の生起の可能性を表していると捉えやすいということや、参加者の抽象化が起こっている場合に可能性を表していると捉えやすい、という指摘には首肯できる。

しかし、この他に、「～ることがある」が〈可能性〉を表しうる環境、要素等はないのだろうか。

本研究では、日本語母語話者による実例、および日本語学習者の産出例を採集し、それらを観察し、分析した。

### 3. 「「～ることがある」が〈可能性〉を表す場合とは

#### 3.1 「～ることがある」が〈可能性〉を表す文の特徴

母語話者による実例の観察を通して、「～ることがある」が〈可能性〉を表す文から抽出できた特徴を、次の(7)のように整理する。

(7) 「～ることがある」が〈可能性〉を表す文に見られる特徴

- A) テキストの種類 …解説、啓発的文章（注意を促す・警告や忠告を与える、ルールを教える、問題解決のための助言を与える など）
- B) 話題 …次のものが専らである。：人やものの特性、自然現象、病気、薬の服用、食品の摂取、道具類の使用・操作、サービスの利用、制度における処置、法の適用
- C) 時間的限定性 …人やものの特性とは恒常的性質であり、時間的な限定はない。また、その他の話題（B）参照）に関して示される事態は、特定の具体的な時間に縛られない（時間的位置づけが不問の）ものであり、時間的限定性がない。
- D) 「～こと」で示される事態の内容 …人やものの特性でない場合は総じて、望ましくなく、警戒すべき事態や、留意すべき事態である。人やものの特性には、望ましくない事態もあればそうでない事態もある。
- E) 「～こと」で示される事態の文における位置づけ …すべてではないが、何らかの条件が示された上でのそれに対する帰結であることが多い。

### 3.2 実例

下に実例の一部（「現代日本語書き言葉均衡コーパス」で採集したものは末尾にサンプル ID と文章のジャンルを付す）を挙げ、それぞれの特徴を示す。

- (8) (子どもは) 自分の体の不調をことばで表現できず、自傷、パニックなどの問題行動として表すことがあるので親や周りの者が気をつけて子どもの様子をみていることが必要です。(PB24\_00125 広報) A) 啓発 B) 子ども一般の特性 C) 恒常的性質 D) 留意すべき事態
- (9) 海底で地震が起こると、津波がおしよせることもあります。(PB54\_00087 (新)4自然科学) A) 解説 B) 自然現象 C) 時間的限定なし D) 警戒すべき事態 E) 条件の帰結
- (10) 降り始めからの総雨量が百ミリ以上になったら十分な注意が必要です。また、地震をきっかけとしてがけ崩れなどが起こることもあるので注意しましょう。(OP14\_00004 広報) A) 啓発 B) 自然現象 C) 時間的限定なし D) 警戒すべき事態
- (11) 薬の作用により、めまいが起こることがあります。／めまいやふらつきなどが現れることがありますので、車の運転や危険を伴う作業は控えて下さい。(処方薬説明書) A) 啓発 B) 薬の服用 C) 時間的限定なし D) 警戒すべき事態
- (12) 肝臓疾患肝臓に中性脂肪がたまる脂肪肝。減量すれば改善しますが、ほうっておくと、肝硬変へ進むこともあります。また、脂肪肝の人は、ほかの生活習慣病をもっていることも多く、注意が必要な病気でもあります。(PM26\_00019 厚生・医療) A) 啓発 B) 病気 C) 時間的限定なし D) 警戒すべき事態 E) 条件の帰結
- (13) 一度に多量に食べると、体質によりお腹がゆるくなることがあります。(のど飴のパッケージ) A) 啓発 B) 食品の摂取 C) 時間的限定なし D) 警戒すべき事態 E) 条件の帰結
- (14) 一切の権限は尾道港祭協会に帰属します。入賞作品の使用にあたっては、応募作品を一部補正することもあります。(OP85\_00001 広報) A) 解説 B) 制度における処置 C) 時間的限定なし D) 留意すべき事態
- (15) 16歳未満のお客様からご注文をいただいた場合は、親権者の方などに確認させていただく事があります。(通販カタログの「ご利用ガイド」) A) 啓発 B) サービスの利用 C) 時間的限定なし D) 留意すべき事態 E) 条件の帰結

上の (8) ～ (15) は事態を表すコト節の述語が動詞ル形の例だが、述語が状態性述語（動詞テイル形、形容詞述語、名詞述語）の例も散見する。これらは

(8) ～ (15) の文が「ある事態が生起・実現する可能性」を述べるのとは異なり、文脈に示されているある事態（例：(16) では「ひざに痛みがある」という事態、(17) では「PC の動作が遅くなったり不具合が出る」という事態）に潜む一面や、事態の原因・背景等について述べており、「既に実現している事態（文脈に示されているもの）とともに、別の事態も存在する可能性」を述べるものとも言える。これらもやはり (7) に示したような特徴を持つ。

- (16) このように、ひざの痛みの症状の後ろに、怖い病気が潜んでいることがあります。ひざに痛みがあったら、単なるひざ痛と勝手に自己診断しないで、専門医の受診をすすめます。(LBo4\_00034 (新)4 自然科学) A) 啓発 B) 病気 C) 時間的限定なし D) 警戒すべき事態
- (17) 動作が遅くなったり何か不具合が出るのは、いろいろな原因がありますがPC環境設定による影響が大きいことがあります。まず、不要なソフトは削除して下さい。(OC02\_02108 インターネット、PC と家電) A) 啓発 B) 道具類の使用・操作 C) 時間的限定なし D) 留意すべき事態
- (18) しかし、大腸の痛みのように見えて実は他の骨盤臓器が原因であることもある。若い女性ではそれが子宮内膜症だったりする事もあるだろうし(略)(OY07\_01011 健康と医学) A) 啓発 B) 病気 C) 時間的限定なし D) 警戒すべき事態

#### 4. 「～ることがある」はなぜ〈可能性〉を表せるのか

##### 4.1 特徴間の相関

(7) に示した「～ることがある」が〈可能性〉を表す文の特徴のうち、「時間的限定性がない」(C)、「人やものの特性を述べる」(Bの一部)という特徴については、宮崎(2004)(2018)で指摘されていた。「何らかの条件が示される場合がある」(E)という特徴については、宮崎や森山(2002)も指摘している。しかし、その他にも、話題(B)、事態の内容(D)、テキストの種類(A)といった点に関しても特徴があることがわかった。

これらA～Eの特徴には相関関係がある。CとA・Bの関係については既に示したが、その他はどうか。Bの、人やものの特性以外の話題に関しては、警戒すべき事態や留意すべき事態が取り上げられる(D)。そのような事態は、何らかの条件の帰結であることもある(例(12): 脂肪肝をほうっておく→肝硬変へ進む、(13): この飴を一度に大量に食べる→お腹がゆるくなる、(16): 16歳未満からの注文がある→親権者などに確認する 等)(E)。そして、警戒すべき事態や留意すべき事態を取り上げることは、それに対する注意を促したり、警告を与えたり、助言したり、といった啓発につながる(A)。

##### 4.2 「～ることがある」が〈可能性〉を表せる理由

「～ることがある」という表現は、その字義、表現を構成する各要素の意味の和としては、「～ること」で表される事態が「ある」、すなわち存在することを表す。ということは、「～ること」という事態はすでに成立・実現し、存在しているのである。日本語学習者の産出例(2)は、まだ話し手が経験したことのない将来に架空の状況下で取りうる行動について述べ、(3)は架空の子どもたち(子どもが減少した社会で育つと子どもはどうなるかという想定上の存在)が、将来陥るかもしれない心理状態について述べるもので、どちらもこれまでに未実現、存在したことの無い事態の、実現可能性を述べている。このような場合に「～ることがある」はそぐわない。(3)は、既に少子化が進んでいる国で実

際に観察されている普遍的な現象を述べていると解釈すれば、「～ることがある」でも不自然ではない)。

一方、(7)の特徴B)の話題についてはどうか。人やものの特性、自然現象、病気(その症状や進行や原因)、薬の服用(薬の作用)、食品の摂取(摂取の影響)、道具類の使用・操作(道具類の働きや反応)に関して取り上げられるのは、これまでに成立・実現したことがわかっていて、存在している事態であるサービスの利用、制度における処置、法の適用に関して取り上げられるのは、そのように対処・処置する、適用することが定められている事態で、やはり存在している事態であると言える。

では、事態の存在を示すことがなぜ〈可能性〉を表していると解釈できるのか。人やものの特性については、特性すなわち恒常的性質であるので、今後もその事態が生起・実現することが予想されるからではないか。人やものの特性以外の話題の場合、これらの話題において取り上げられているのは、警戒すべき事態や留意すべき事態であった。そのような事態が存在することが示されることで、今後や将来においてもその事態が生起・実現しうると予想させ、だから警戒が必要である、と注意や警戒を促したり、こうするのがよい、と忠告や助言を与える啓発に導くのではないか。

「～ることがある」という、本来、事態の存在を表す表現形式は、(7)のような環境や要素が加わると、事態の実現・成立の〈可能性〉を表せるようになるのだと考えられる。

## 5. 終わりに

「～ることがある」が〈可能性〉を表す場合(環境や要素)についてはかなり明らかになった。さらには、他の〈可能性〉を表す諸形式との異同を追究し、これらの諸形式の体系を整理する必要があるだろう。そして、それらを日本語教育にどのように生かすかも今後の課題である。

### 参考文献

- 宮崎和人(2004)「反復性と可能性—現代日本語のスルコトガアル—」『KLS』24 99-109
- 宮崎和人(2018)「分析的な表現手段の存在意義—可能性の形式をめぐって—」藤田保幸・山崎誠編『形式語研究の現在』299-317 和泉書院
- 森山卓郎(2002)「可能性とその周辺—「かねない」「あり得る」「可能性がある」等の迂言的形式と「かもしれない」—」『日本語学』Vol.21-No.2 17-27 明治書院

### 言及した日本語教科書

- スリーエーネットワーク編著(2008)『みんなの日本語中級I』スリーエーネットワーク

### 使用したコーパス

「現代日本語書き言葉均衡コーパス 中納言版 (BCCWJ)」国立国語研究所  
<https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-ntsearch>  
 「JCK 作文コーパス」 <http://nihongosakubun.sakura.ne.jp/corpus/>  
 「多言語母語の日本語学習者横断コーパス (I-JAS)」国立国語研究所  
<https://chunagon.ninjal.ac.jp/ijas/search>  
 「日本語学習者作文コーパス」 <http://sakubun.jpn.org/>  
 (いずれも 2022 年 7 月 20 日最終閲覧)

本研究は、科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）（一般）「気づかれにくい文法的類義表現」（課題番号 19K00637）（平成 31 年度～令和 4 年度）の成果の一部である。

- 
- 1 「こと」の前の用言（コト節内の述語）がタ形でないものを指す。また、「こと」に付く助詞には「が」の他に「も」「は」等もあるが、それらの異同はここでは問題にしない。
  - 2 原文そのものではなく本稿筆者によるまとめであり、既述に不適切さや誤りがあればそれは本稿筆者に帰せられるものである。
  - 3 「ポテンシャル」「アクチュアル」は時間的限定性の有無にかかわる概念で、「ポテンシャル」は時間的限定性がないこと、「アクチュアル」は時間的限定性があることを意味する。宮崎（2004）（2018）では、可能にも可能性にもポテンシャルなものどアクチュアルなものがあると見る。